

さんごの寄合い所

— 人々が集い賑わう憩いの場 —



本部町の課題

自然景観の保全

本部町は貴重な動植物、サンゴ礁が生息し、自然に囲まれた町である。これらの自然は訪れる人々の癒しであり、本部町の貴重な観光資源となっている。このため景観・自然保護が課題である。

伝統文化の衰退

本部町に伝わる「シメグ」は、町内で継承・保存されており、無病息災や五穀豊穡を祈願する祭りである。しかし近年は、人口と活気の衰退によって消滅の危機にある。

閑散とする市街地

本部港は、北部観光の目玉、美ら島水族館や瀬底島への通過点である。しかし、港や市街地周辺の賑わいはまだ少ないように思える。

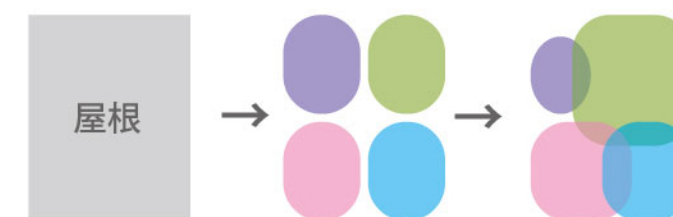
Concept

珊瑚に集まる魚のように人々が集い、賑わう空間

珊瑚をモチーフにすることで、訪れる観光客や町民に自然環境保全の理解浸透・啓発を促します。また、待機所と荷捌き場の他にイベントスペースと休憩所を設け、そこで伝統文化を披露したり、ふらりと夕日を眺めに来たりと、町民にも開かれた空間を考えました。観光客にとっての待合所と荷捌き場。町民にとっての休憩所とイベントスペース。これら4つの機能を併せ持つ「寄合い所」を建築することで、人々が集い交流する場所を提案します。



珊瑚の建築プロセス



屋根をゾーン分けしテーブル珊瑚の「曲線」「重なり」の要素をプラス、多様な空間が生まれる。

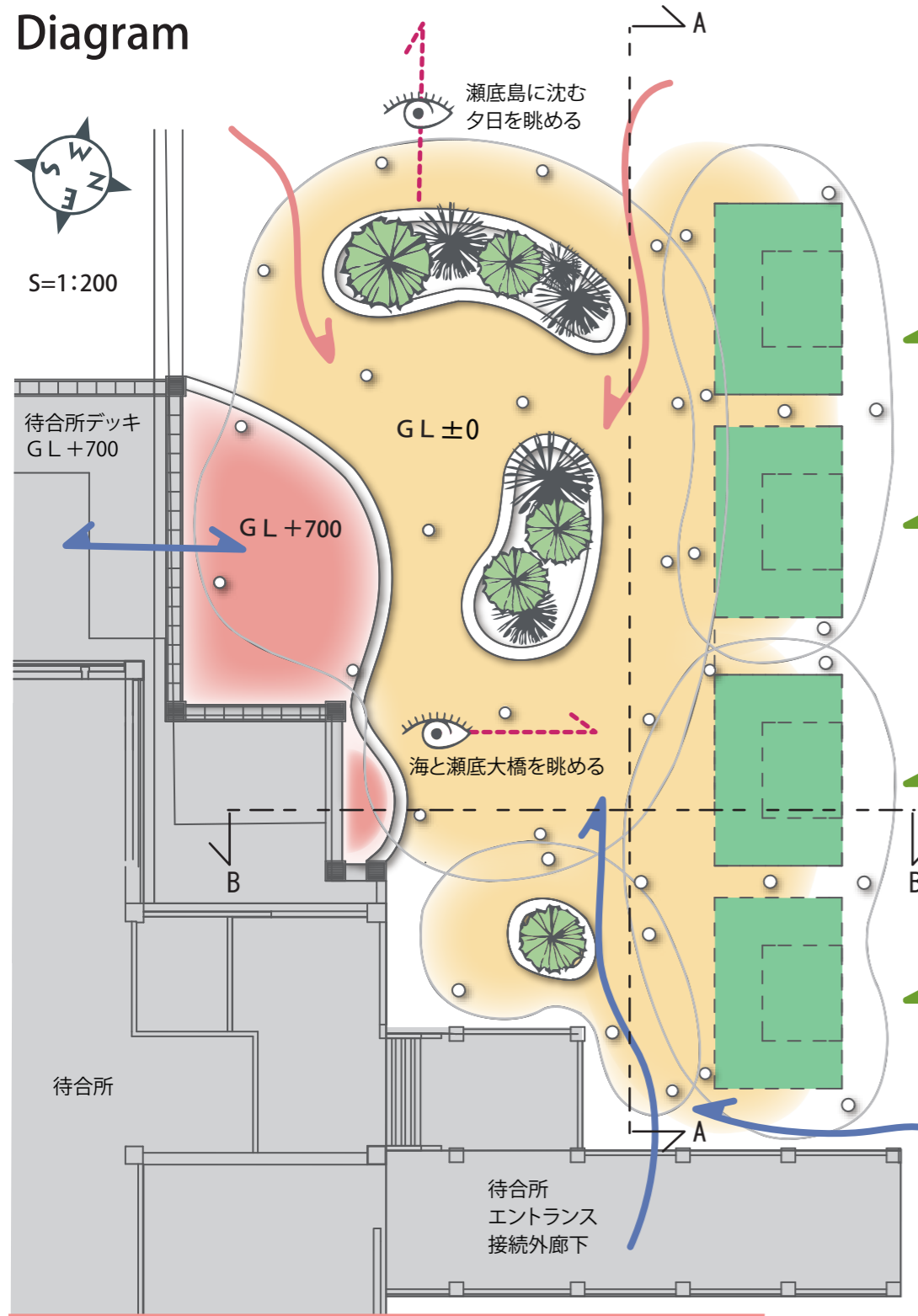
サンゴの寄合い所

— 人々が集い賑わう憩いの場 —

A-A Section 1:200

B-B Section 1:200

Diagram



コンテナスペース

フェリー側へ一列に配置し、シンプルな動線とすることで作業の効率化を考えた。

待機・休憩スペース

高さも大きさも異なる4枚の屋根を設けることで、様々な空間を持つ待機休憩スペースが生まれる。

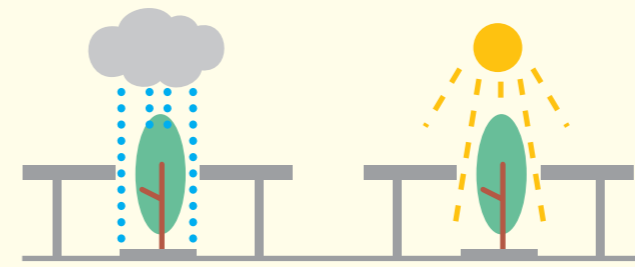
イベントスペース

伝統芸能を伝える場と地域情報発信のために、ワークショップや伝統芸能の発表等ができる場として利用。

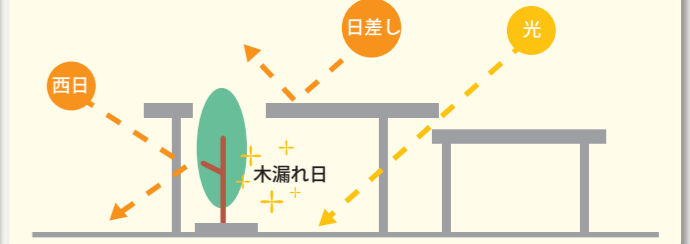
植栽計画

塩害に強い植物を検討。西側には西日を遮るために高さのあるフクギを、中央には低木のソテツを配置する。

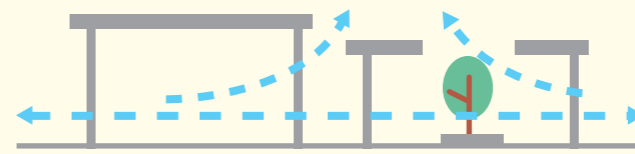
雨と光が落ちる植物を育てる穴。内部空間にしながら時間や季節の移ろいを感じる。



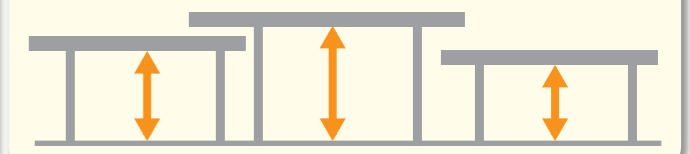
屋根は強い日差しを遮り、光は隣接する屋根同士の隙間から取り入れる。西日が差し込む箇所には木を植え、日差しをカットしつつ、木漏れ日が内部空間に広がる。



屋根の高低差を利用して風の流れをつくる。



天井の高さを変えることで、多様な空間が生まれる。

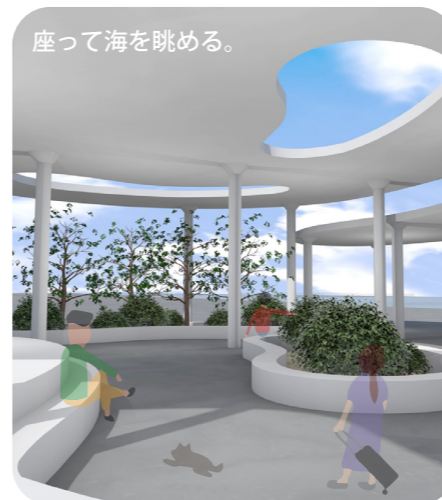


町民にも開いた場所をつくる

荷捌き所、待機所の他に誰でも利用できるイベントスペースを設置、また待合所を町民の休憩スペースとしても開くことで観光客と町民、または町民同士の交流が生まれる。

本部町民

観光客(フェリー利用者)



Data

- 延べ面積: 483.56㎡ (待機所: 357.39㎡・荷捌きスペース: 126.17㎡)
- 柱: 鉄骨(一部CFT) ● 屋根: RC造